



広島商工会議所&ひろしま地球環境フォーラム

**SDGsセミナー&ワークショップ
【上級編】「SDGsワークショップ：
社会課題起点で事業を考える」**



2023年1月18日

**株式会社日本総合研究所
橋爪 麻紀子 長谷 直子**

本日のタイムテーブル

構成	内容	所要時間 (分)	形式	詳細
イントロダクション 13:30-14:00	主催者ご挨拶	10	全体	(ひろしま地球環境フォーラム)
	講師自己紹介		全体	(日本総研)
	本研修の目的・ 進め方		全体	目的、進め方
	アイスブレイク	15	グループ	自己紹介・グループ紹介
	中級振り返り	5	全体	(日本総研)
第1部 業務とSDGsを 紐づけるには 14:00-15:05	講義/ワーク説明	5	全体	SDGs概要 ワーク説明
	グループワーク	30	グループ	ロジックモデルを書いてみる
	発表	15	全体	
	休憩	15	—	
第2部 社会課題起点の アクションとは 15:05-16:10	講義/ワーク説明	5	全体	ロジックモデルの考え方- ワーク説明 社会課題起点 グループ
	グループワーク	45	グループ	社会課題起点のロジックモデルを書いてみる
	発表	15	全体	各グループ4分 x 3
クロージング 16:15-16:30	振り返り/質問	10	全体	総括、質疑応答
	ご挨拶	5	全体	ご挨拶

イントロダクション
主催者ご挨拶
ひろしま地球環境フォーラム

講師紹介

講師紹介



橋爪 麻紀子 シニアマネジャー

NTTデータ、国際協力機構（JICA）を経て、2012年より現職。ESG側面の企業評価業務に従事する傍ら、ESGを重視した金融商品の開発、社会的インパクトの創出に焦点を置いた活動を行っている。近年では、自治体や地域企業向けにESGやSDGsに関する講演、執筆を積極的に実施。共著に「「わたし」のための金融リテラシー」「行職員のための 地域金融×SDGs入門」「ビジネスパーソンのためのSDGsの教科書」「投資家と企業のためのESG読本」等。



長谷 直子（はせ なおこ）

2002年株式会社日本総合研究所入社。産業ソリューション事業本部を経て2006年より現職。2007年から2008年まで経済産業省に出向し、地球温暖化政策などの業務に携わる。専門分野は気候変動・環境問題。評価型融資における企業評価業務やサステナブル・ファイナンス商品の開発支援を行う。著書に『行職員のための地域金融 x SDGs』、『だから日本の新エネルギーはうまくいかない！』（いずれも共著）等。

本研修の目的、進め方

本研修の目的

本研修のセミナー・ワークショップのコンテンツが
参加者の皆様の SDGsやサステナビリティに関する行動のきっかけになることを企図しております。

「知識の習得」から「行動」へ



アイスブレイク（15分）

参加者は、3チームに分かれています

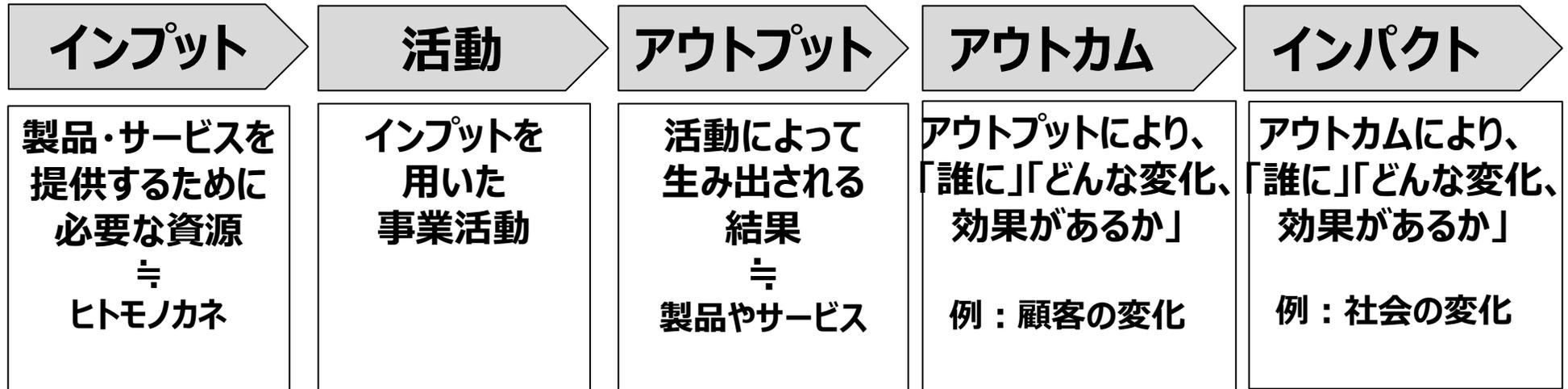
- ① チームメンバー各自が、以下3点を共有してください（10分）
- ② チームの代表が、他チームに自チームを紹介してください（5分）

1. お名前
2. 現在のお仕事、学んでいることなど
3. どんな社会課題に関心があるか + その理由

中級講座まで の振り返り

ロジックモデルで考える

事業や組織が最終的に目指す目的を達成するまでの論理的な道すじを図式化したもの。
 異なる立場の人々が、戦略の共通認識を得る、優先施策を決める時などに使う



①なにを「インパクト」と位置付けるべきか：

組織の事業内容や、規模、地域性、ステークホルダーによって

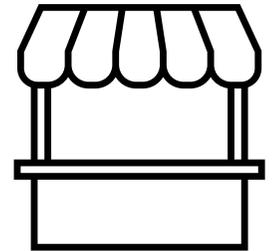
「重要課題（マテリアリティ）」は大きく異なるので、それに見合った「インパクト」を考える

重要課題 の特定プロセス

1. 自組織の事業の課題として、「経済、環境、社会に対して、より大きなインパクトがあるもの」を洗い出す
2. 自組織のステークホルダーを洗い出す
3. 「1」課題 と「2」のステークホルダーを組み合わせて、「誰に何を」を考える
4. 3の優先度を決定する

(例)

1.食品小売の重要課題：
経済：廃棄費用、地域雇用、
環境：ゴミ問題、過剰包装、
社会：騒音、地域交流



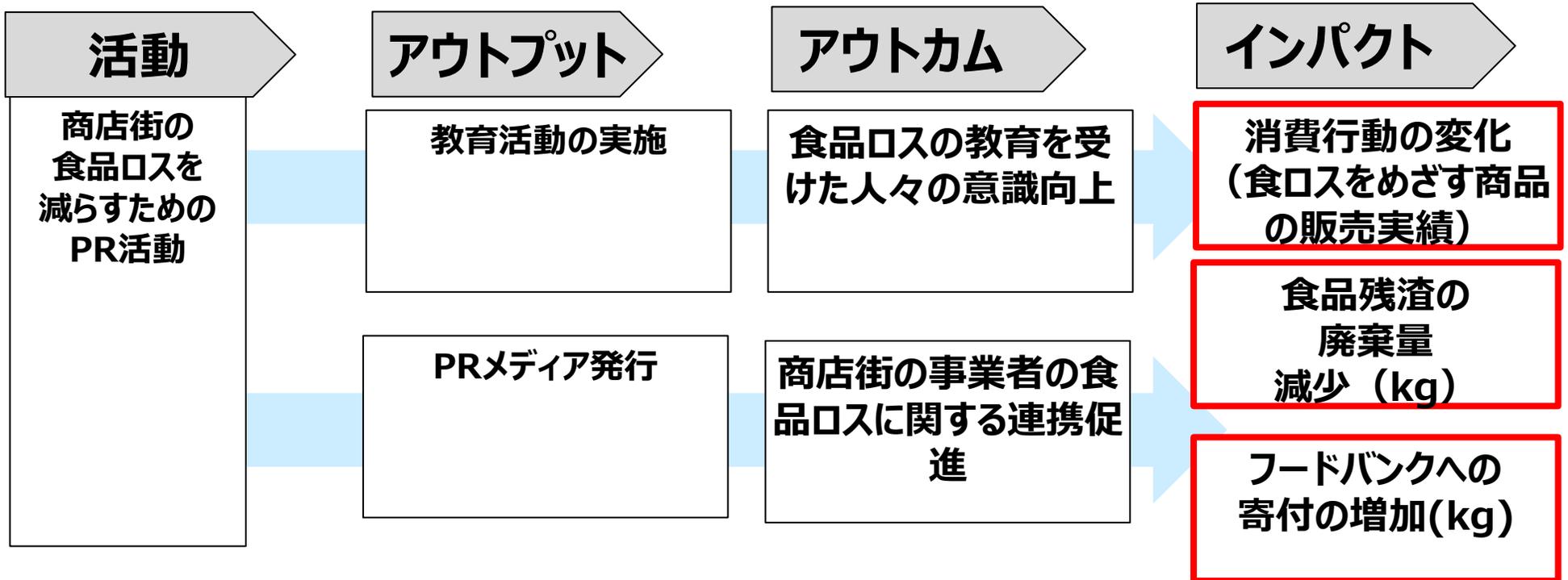
2.大事なステークホルダー：
買物客、仕入れ先、地域住民、
物流業者、従業員、商店街

3.ステークホルダー x 課題：
例：買物客 x 環境意識促進
例：地域住民 x 積極採用
例：従業員 x 地域環境の美化

②インパクトを測る指標と目標をきめる

「食品ロスのPR」がうまくいったかどうかを判断するには、どのような指標にもとづき、目標を達成するかを決めておく必要がある。

(例：食品ロスを減らすためのPR活動)



③インパクトを測定する手法を考える

(例：食品ロスを減らすためのPR活動のインパクト測定)

インパクト指標

食品ロスの教育を受けた人々の意識向上

商店街の事業者の食品ロスに関する連携促進

食品残渣の減少

フードバンクへの寄付の増加

測定するための手法

食品ロス教育を受けた人々の意識の変化を測るため、アンケートをとる

商店街の事業者の件数や、事業者が関わったお客様の数を確認する

商店街の事業者に食品残渣の廃棄にかかった費用を確認する

当該地域におけるフードバンクへの寄付状況を確認する

第1部

ロジックモデルを書いてみる

本日のタイムテーブル

構成	内容	所要時間 (分)	形式	詳細
イントロダクション 13:30-14:00	主催者ご挨拶	10	全体	(ひろしま地球環境フォーラム)
	講師自己紹介		全体	(日本総研)
	本研修の目的・ 進め方		全体	目的、進め方
	アイスブレイク	15	グループ	自己紹介・グループ紹介
	中級振り返り	5	全体	(日本総研)
第1部 業務とSDGsを 紐づけるには 14:00-15:05	講義/ワーク説明	5	全体	SDGs概要 ワーク説明
	グループワーク	30	グループ	ロジックモデルを書いてみる
	発表	15	全体	
	休憩	15	—	
第2部 社会課題起点の アクションとは 15:05-16:10	講義/ワーク説明	5	全体	ロジックモデルの考え方- ワーク説明 社会課題起点 グループ
	グループワーク	45	グループ	社会課題起点のロジックモデルを書いてみる
	発表	15	全体	各グループ4分 x 3
クロージング 16:15-16:30	振り返り/質問	10	全体	総括、質疑応答
	ご挨拶	5	全体	ご挨拶

組織でSDGsに取り組むステップ

- ✓ 手始めに取り組むべきは自社取り組みとの紐付け作業
- ✓ 情報開示のための紐付作業では「変革」が起きない。社内外での「追加的」取組みが重要

いま話していること

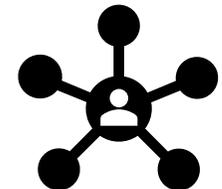


- STEP1 :**
事業紐付け、課題把握
実績の情報開示
- 株主・投資家
 - 外部評価機関・自治体
 - 地域住民・NGO etc.



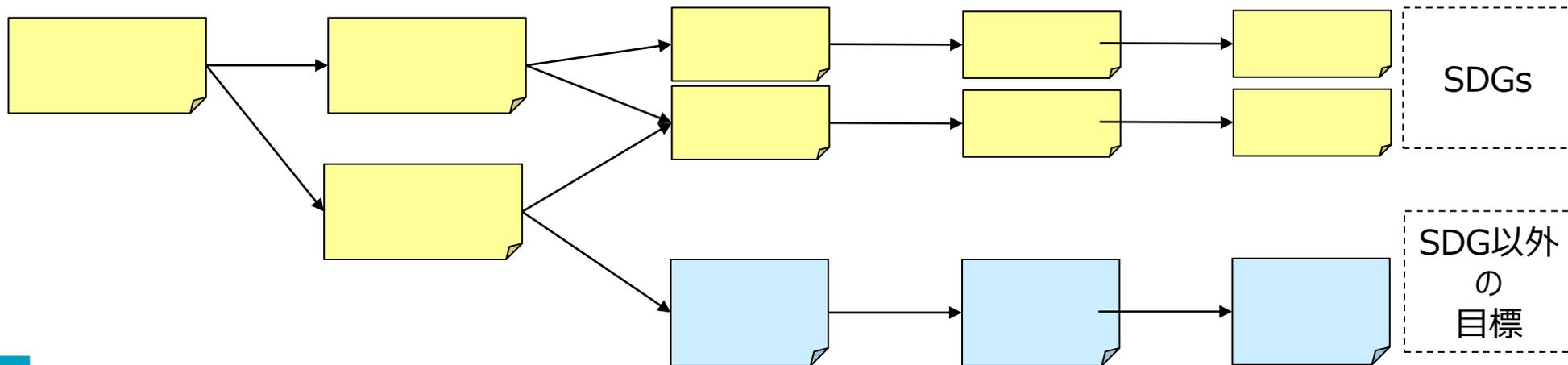
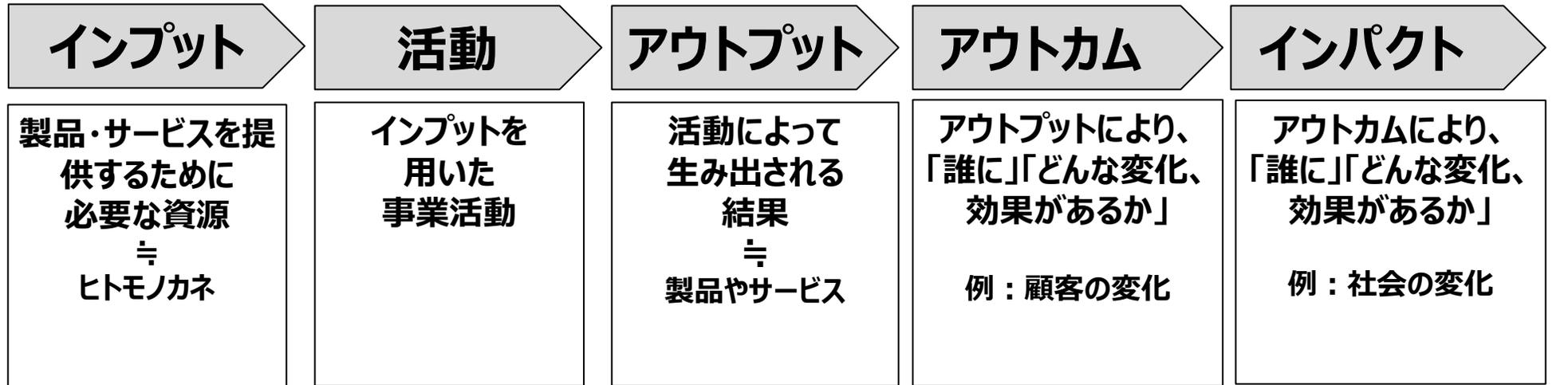
- STEP2:**
組織意識改革
- 社員のロイヤルティ向上
 - ミレニアル世代・Z世代へのアプローチ、採用
 - 事業継承（中小企業）

- STEP3:**
変革への足掛かり
- 新規ビジネス創出
 - 事業構造の転換
 - オープンイノベーション
 - 第二創業（中小企業）



ロジックモデルで考える：事例 食品ロス削減のPR活動

事業や組織が最終的に目指す目的を達成するまでの論理的な道すじを図式化したもの。
異なる立場の人々が、戦略の共通認識を得る、優先施策を決める時などに使う



Q ロジックモデルは どんな風に使われているのでしょうか

ロジックモデルの例 国土交通省：地域防災

地域の防災拠点となる建築物の整備促進

本事業については、「建築物耐震対策緊急促進事業(継続)」「災害時拠点強靱化緊急促進事業(継続)」「一時避難場所整備緊急促進事業(新規)」の3つの事業からなっているところ、「一時避難場所整備緊急促進事業(新規)」に関して以下ロジックモデルを作成する。

(把握している現状)

○気候変動等により激甚化・頻発化する水災害

平均 174回 (1976-1985年) → 平均 251回 (2010-2019年) ※約1.4倍

図1 短時間強雨(1時間降雨量50mm以上)の年間発生回数

図2 氾濫危険水位を超過した河川数

○地域における避難場所等の防災拠点の不足

表1 25%が広域避難する場合 緊急避難人口と避難可能人数の比較(単位:人)(浸水対応型市街地構想(資料編)、葛飾区)

区市町村名	総人口	緊急避難人口	R-3(2025) 避難可能人口 (公共施設・民間施設)		R-3(2025) 避難可能人口 (公共施設・民間施設)	
			避難可能人口	差	避難可能人口	差
1 野田市の自治体	23,405	14,272	3,723	-10,549	12,484	-1,788
2 葛飾区の自治体	24,405	11,248	5,176	-6,072	26,159	17,910
3 荒川区の自治体	13,432	9,135	1,511	-7,624	4,628	-4,507
4 江戸川区の自治体	16,535	8,982	6,185	-2,807	12,394	3,412
5 墨田区の自治体	22,300	9,899	5,589	-4,310	20,383	10,484
6 江東区の自治体	15,082	8,728	2,074	-6,654	8,451	-327
7 江ノ島の自治体	19,205	10,976	8,412	-2,564	16,646	5,670
8 葛飾区本郷の自治体	8,162	4,084	1,181	-2,903	4,000	-384
9 葛飾区新小岩の自治体	11,407	6,577	735	-5,842	5,227	-1,350
10 葛飾区新小岩の自治体	15,788	8,147	2,080	-6,067	12,688	4,541
11 葛飾区新小岩の自治体	24,933	13,554	2,284	-11,269	11,817	-1,747
12 葛飾区新小岩の自治体	19,786	9,351	3,837	-5,514	22,281	13,030
13 葛飾区新小岩の自治体	19,225	11,207	8,371	-2,836	13,641	2,434
14 葛飾区新小岩の自治体	17,414	8,678	8,266	-4,408	18,814	10,136
15 葛飾区新小岩の自治体	7,508	3,381	1,611	-1,770	3,103	-2,278
16 葛飾区新小岩の自治体	8,575	3,417	1,084	-2,331	8,966	3,549
17 葛飾区新小岩の自治体	26,510	11,745	22,632	10,887	43,826	32,081
18 葛飾区新小岩の自治体	22,180	11,244	3,782	-7,462	11,004	-748
19 葛飾区新小岩の自治体	20,934	12,115	3,338	-8,777	13,482	-3,243
合計	244,072	182,843	88,005	-94,838	274,172	89,229

公共施設等の避難場所のみでは46%の避難が困難

(解決すべき課題)

- 水害時に大量に発生する、周辺からの避難者を一時的に受け入れる施設については、公共施設のみでは不足するため、民間施設も活用し確保することが必要
- 受け入れ施設の整備費用を民間施設の所有者に負担させることは理解が得られにくい

(インプット)

- 一時避難場所整備緊急促進事業
- R 4 年度要求額：150億円の内数
- 事業期間：R 3年度からR 5年度まで

(アクティビティ)

- 水害時における避難者を一時的に受け入れるスペース等の整備

(アウトプット)

- 避難者等を一時的に受け入れる施設の確保

(アウトカム)

- 水害時における住民の安全性の確保 (洪水浸水想定区域指定の2,102河川について、1,345市区町村が洪水ハザードマップを指定)

ロジックモデルの例 内閣府：地震対策

地震対策の推進に必要な経費 ロジックモデル

事業の目的：東日本大震災の教訓等を踏まえ、甚大かつ広域な被害を及ぼすおそれがある大規模地震について、関係機関が一体となった防災・減災対策を行うため、地震動・津波の推定、被害想定等を行う。

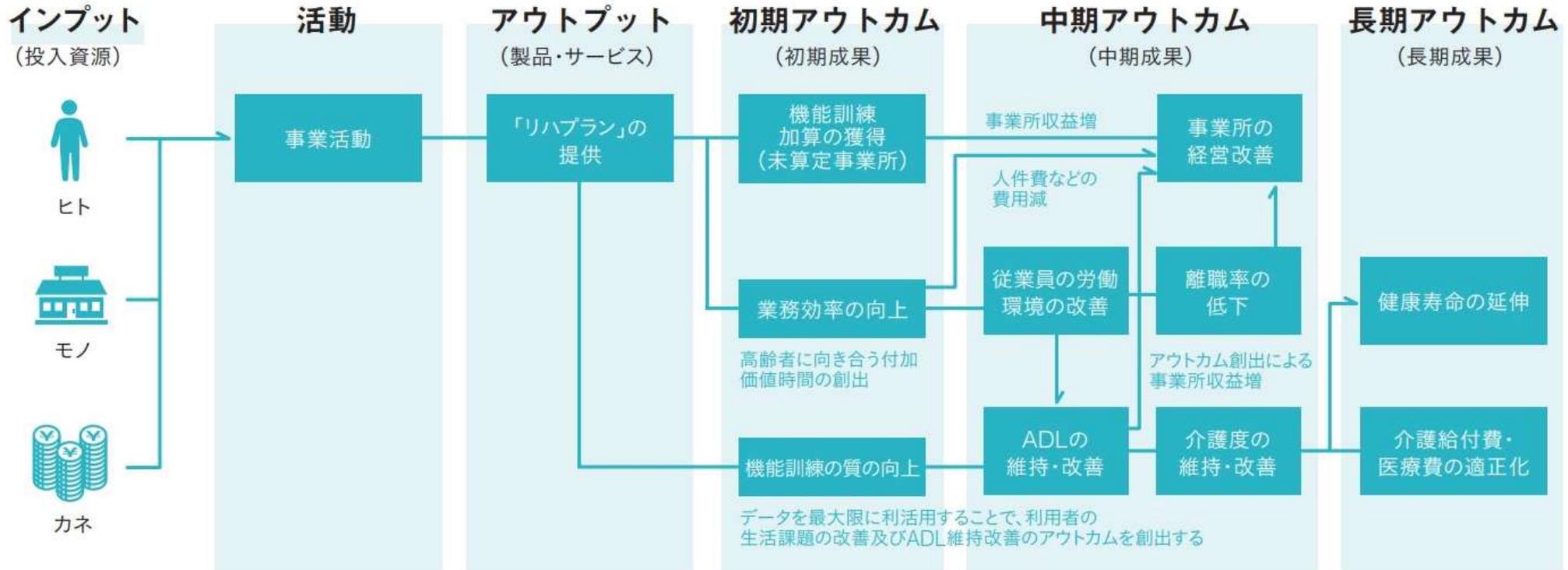
インプット	アクティビティ	アウトプット	アウトカム	インパクト
予算額※ 【29年度】当初予算 186 【28年度】当初予算 188 （単位：百万円） ※モデル構築及び被害想定に係る費用は含まれているが、基本計画の策定や基本計画に基づく防災・減災対策の推進に係る費用は含まれていない	日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震について、東日本大震災の教訓を活かし、想定最大規模での地震動モデルや津波モデルの構築及び被害予測等を実施	被害予測を基に、防災・減災対策の方針や減災目標等について取りまとめた基本計画の策定	基本計画に基づく防災・減災対策の推進による効果 （例） ・海岸保全施設の整備率向上 ・津波ハザードマップの作成率向上 ・住宅・建築物の耐震化率向上 など	基本計画で定めた防災・減災目標に貢献 （例）※ ・今後10年間で死者数を4～5割減 ・今後10年間で経済被害額を1/4減 ※上記の減災目標は平成20年に策定された「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の地震防災戦略」に記載の値であり、東日本大震災の教訓を踏まえた被害想定の見直しに伴い変更となる場合がある
災害対策基本法、大規模地震対策特別措置法等	日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法 ほか	日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法 ほか	日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法に基づき作成した基本計画 ほか	日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法に基づき作成した基本計画

手段と目標の因果関係に関する検討の結果

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法では、基本計画を作成し、地震防災に関する対策を推進することが義務付けられている。基本計画の策定にあたり、地震動モデル・津波モデルの構築、被害想定算出、減災目標の設定等を的確に行い、減災目標の達成に向けた施策を立案している。ゆえに、いずれの手段も死者数や経済被害を減少させるために必須である。

ロジックモデルの例 (株)Rehab for Japan

Rehab for Japan（2016年6月設立）は、介護事業所向けリハビリSaaS『リハプラン』を提供するスタートアップ。機能訓練業務を誰でも簡単・安心・効果的に行える「デイサービス向けクラウド機能訓練ソフト」を提供する。最新の高齢者データベースをもとに2,200種類の目標・運動プログラムから最適な計画・訓練を自動で提案。リハビリ業務に必要なすべての機能があり、職員の書類業務負担を軽減し、ADLの改善にも貢献。結果として、介護事業所の差別化・売上アップを支援することで、最終的に健康寿命の延伸や医療費の適正化を目指してい



出所：以下レポートを引用して作成。

https://eucalia.jp/wp-eucalia/wp-content/uploads/2021/06/Impact-Report-2020_CMV.pdf

(グループワーク) 実際にロジックモデルを書いてみましょう

テーマ：防災

【グループワーク】ロジックモデル作成

- ① 模造紙にロジックモデルを作成してください：30分
- ② 終わったチームは模造紙を壁に貼ってください
- ③ 各チームで発表頂きます：5分 x 3チーム

進め方のステップ：

1. 課題を読む
2. 各自が、ポストイットに「インプット」「活動」「アウトプット」「アウトカム」「インパクト」を思いっただけ書きだす
3. グループで、そのロジック（因果関係、道すじ）が正しいようにポストイットを並べてみる
4. 各ポストイットを線で結ぶ
5. 「アウトカム」「インパクト」は指標を考える
6. できあがったら、グループでロジックモデルのストーリーを確認する
7. 発表者を決める

課題：「防災ママカフェ®」



何が、インプット、アウトプット、アウトカム、インパクトでしょうか

- ✓ 一般社団法人Smart Supply Vision が提供する、「防災ママカフェ®」は、いざ災害が起きた時に、災害弱者である乳幼児・未就学児を守らなくてはならない母親向けの防災講座です。日々家事育児に忙しく、防災に興味関心のない母親たちに、地震の国に生きる、災害に備えるための「備災」意識や知識を高めってもらうため、被災した母親たちのリアルな経験と子どもを守る知恵を、映像やスライド、被災地の母親の声を集めた防災ブックを使い、分かりやすい「ママ語」で伝えます。ママやパパたちが乳幼児同伴でも参加しやすい場づくり・雰囲気づくりが行われることも特徴です。
- ✓ 全国各地のママたちが自主的に主催し、東京より講師を招いて開催されており、行政や地域の自主防災団体などが主催する防災セミナーが集客に苦心する中、2021年4月現在、全国300か所、2万人を超える方々が参加しています。
- ✓ 「ママが変わる」「アクションが生まれる」防災講座としてニュースで取り上げられるなど大きな話題になっています。「防災ママカフェ®」に参加した母親たちによるSNSを活用した備災情報共有ネットワークや、地域自主防災組織の立ち上げなど、全国で新たな動きが広がっています。

出所：<https://simi.or.jp/info/798>

課題：「防災ママカフェ®」

<「防災ママカフェ®」開催例>

①防災ワークショップ（約2時間）

大震災で乳幼児ママが直面した「実際はこうだった！」リアルな体験談から学んで、備えるワークショップ。映像やスライドの写真、実例をもとに分かりやすい言葉で伝えます。

②防災食試作試食（約30分）

被災地ママの「子どもはまずいと食べない」「食べない備蓄は意味がない」の声から生まれた親子で作って食べる防災食チャレンジ！発熱剤を使って実際に調理します。

<メディアでも取材多数！>

全国各地のママたちの間でSNS・ブログによる口コミが広まり開催地が拡大中。「防災」に興味関心がなかった乳幼児ママたちの大きな変化、その後の活躍ぶりが注目され、NHKニュース「おはよう日本」、NHK教育「まいにちスクスク」の親子で防災特集、RKB「今日感テレビ」密着取材他、様々なメディアで多数紹介されています。

<ママのための防災ブック「その時ママがすることは？」>

東日本大震災、熊本地震を経験した約400人の乳幼児ママ達から聞き取った被災経験を元に、地震直後から1週間くらいまでに「その時何があったのか」「どうやって子どもを守ったのか」、そして、次にやってくる災害から大切な子どものいのちを守るために「今、ママとして何が出来るか」、を被災したママのリアルな声から学べる1冊になっています。

何が、インプット、アウトプット、アウトカム、インパクトでしょうか

課題：「防災ママカフェ®」



参加ママ

「子どものいのちを守れるママになる」その思いが集約されたセミナーでした。スタッフも参加者も子育て真っ只中の人が多く、自由がきかない事も多いはずなのに、それを感じさせないくらいの行動力と熱気に包まれました。愛しい命を守る！意気込みを、愛を、感じました。その場にいる方々は知らない同士であっても、お互いを思いやって声をかけたり、手を差し伸べたり温かい空気がありました。自然災害は本当に恐ろしいと改めて思いましたし、極限状態になったことのない私は怖いことだらけです。でも、やれることはある！と希望をもらいました。まず、自分、子ども、家族を守れるような心の備え、物の備えをすること。自分で考え、行動し、それを周囲と話し合い、共有し、助け合う…。今回のセミナーに関わった全ての方ひとりひとりが、希望の光だと思いました。お話であったように、セミナーで終わりではなく、ここからスタート。やれることをやっていると強く思いました。

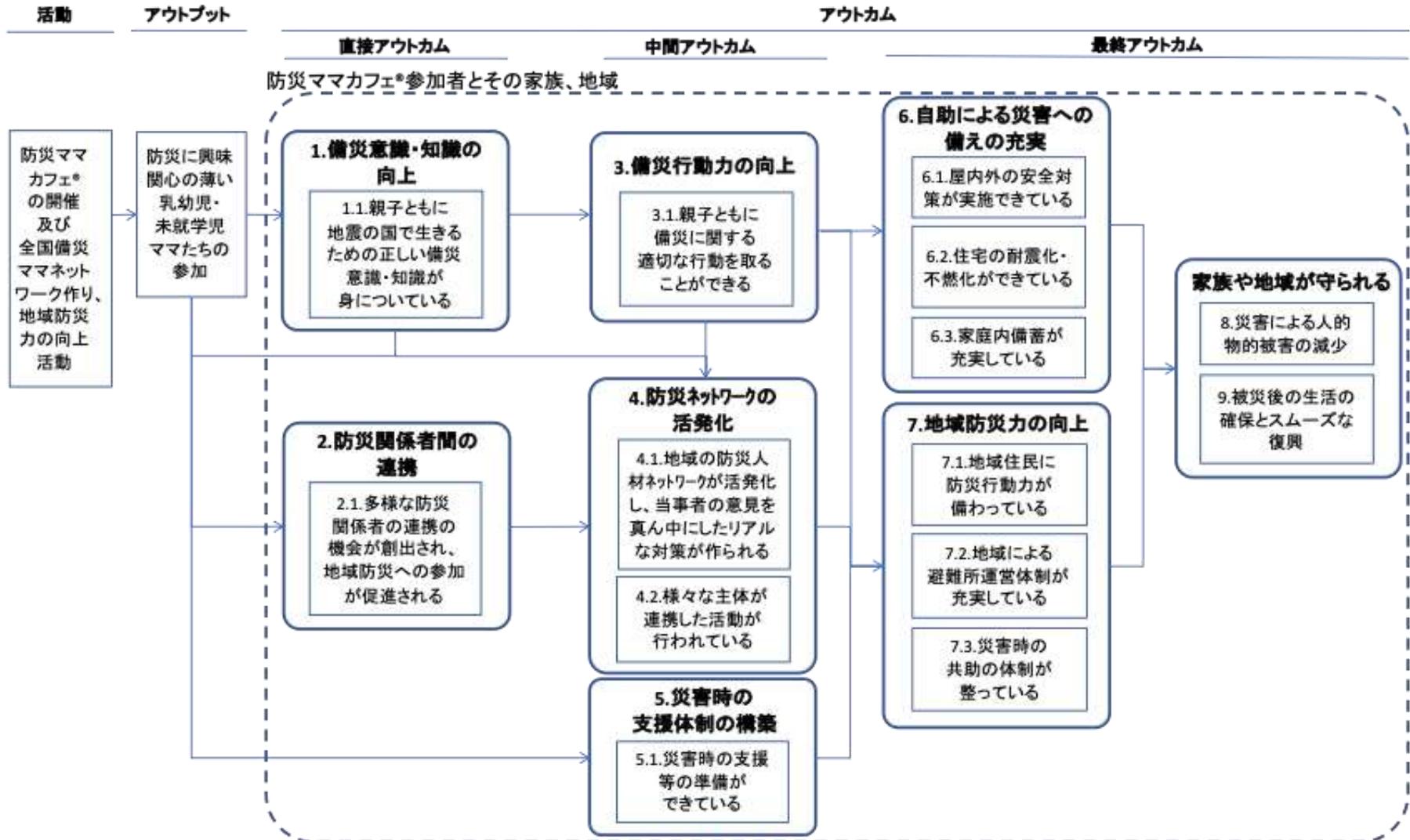


地方自治体、主催者様

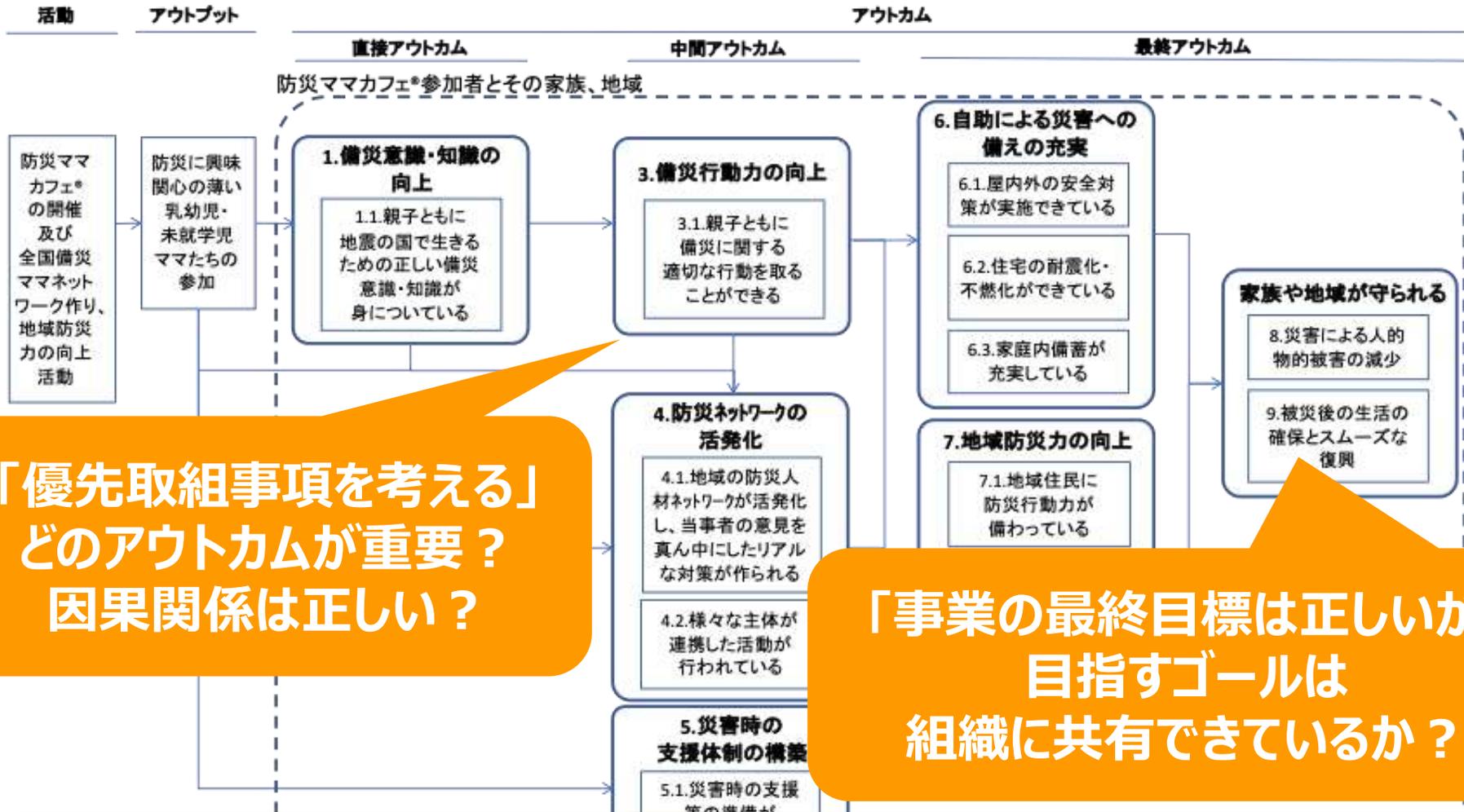
「自分と、大切な人の命を守るために今何をすればいいのか」が分かった。いつ起きても不思議ではないと言われている南海トラフ巨大地震。私たちは「自分の命、そして大切な人の命を守るために何をすればいいのか」。そんな疑問に答えていただける内容で、とても参考になりました。また、本市の被害想定なども事前にお調べいただき、受講者は、よりリアルな話として聴講することができたと感じました。セミナー終了後、若いママたちからは、「子どもを連れていて、一般的に行われる防災セミナーには参加しにくいですが、今日は、子どもと一緒に聞くことができ良かった」と話される方もおみえになり、主催者としては大変うれしく思っております。

グループ発表 (5分 x 3チーム) 「ロジックモデルを書いてみる」

「防災ママカフェ®」のロジックモデル案



「防災ママカフェ®」のロジックモデル案



組織の関係者一同で俯瞰し、共通認識を得る

振り返り・ご質問

**作業の目的・内容がわからなかった、
または、やり方に不明点があった場合なども今ご質問ください。**

15:05にお戻りください



第2部

社会課題起点で 次のアクションを考える

本日のタイムテーブル

構成	内容	所要時間 (分)	形式	詳細
イントロダクション 13:30-14:00	主催者ご挨拶	10	全体	(ひろしま地球環境フォーラム)
	講師自己紹介		全体	(日本総研)
	本研修の目的・ 進め方		全体	目的、進め方
	アイスブレイク	15	グループ	自己紹介・グループ紹介
	中級振り返り	5	全体	(日本総研)
第1部 ロジックモデルを 書いてみる 14:00-15:05	講義/ワーク説明	5	全体	SDGs概要 ワーク説明
	グループワーク	30	グループ	ロジックモデルを書いてみる
	発表	15	全体	
	休憩	15	—	
第2部 社会課題起点の アクションとは 15:05-16:10	講義/ワーク説明	5	全体	ロジックモデルの考え方- ワーク説明 社会課題起点 グループ
	グループワーク	45	グループ	社会課題起点のロジックモデルを書いてみる
	発表	15	全体	各グループ4分 x 3
クロージング 16:15-16:30	振り返り/質問 ご挨拶	10 5	全体 全体	総括、質疑心合 ご挨拶

組織でSDGsに取り組むステップ°（再掲）

- ✓ 組織での理解が進み、関心が高まったあとのほうがアクションを起こしやすい。
- ✓ 業務起点ではなく、SDGs(社会課題)起点で考えていく



STEP1 :

事業紐付け、実績の情報開示

- 株主・投資家
- 外部評価機関・自治体
- 地域住民・NGO etc.



STEP2:

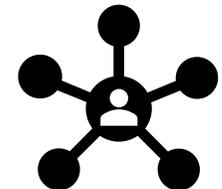
組織意識改革

- 社員ロイヤルティ向上
- ミレニアル世代・Z世代へのアプローチ、採用
- 事業継承（中小企業）

STEP3:

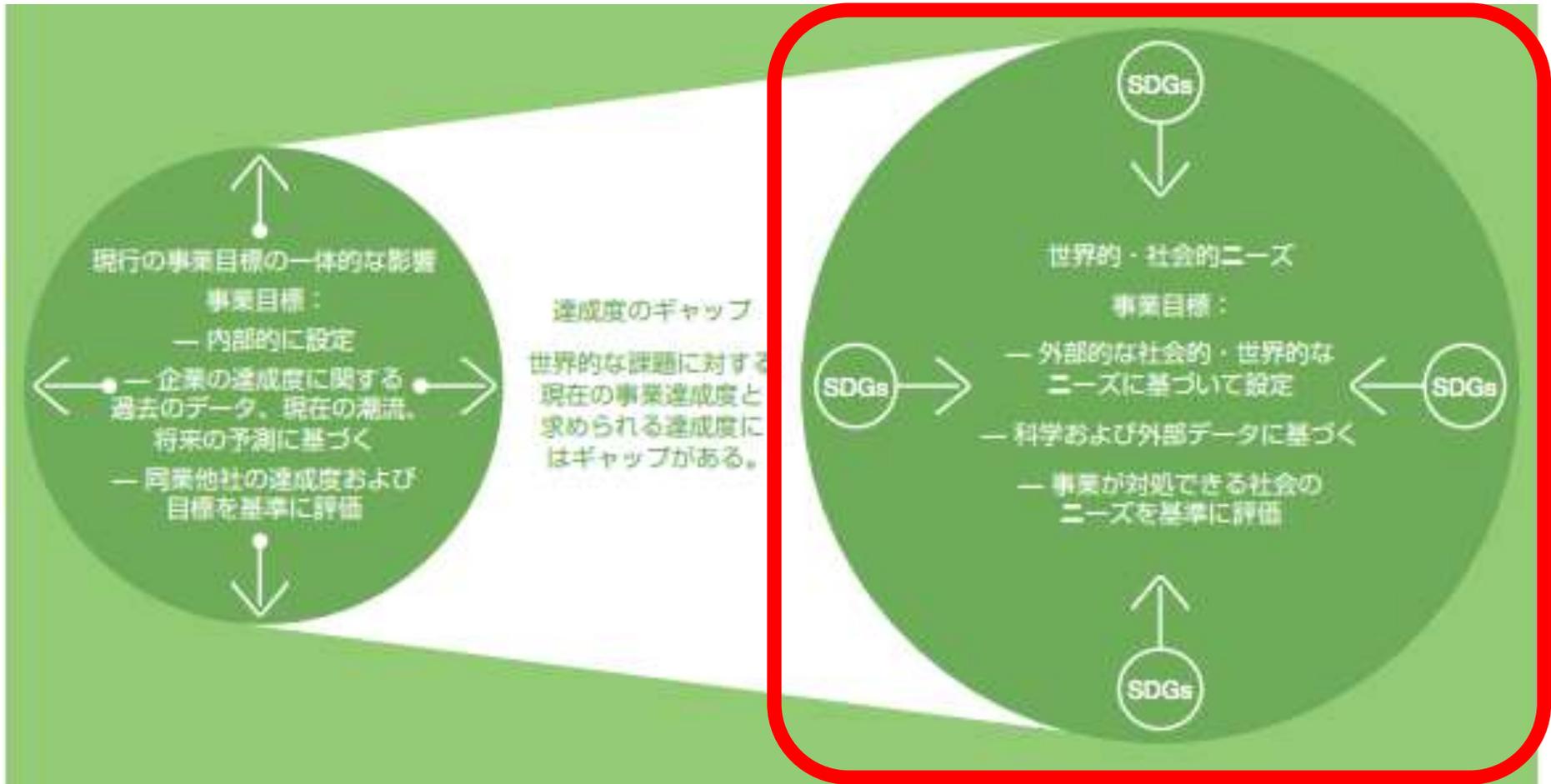
成長への足掛かり

- 新規ビジネス創出
- 事業構造の転換
- オープンイノベーション
- 第二創業（中小企業）



必要なのはバックキャスト思考 (SDGsコンパス)

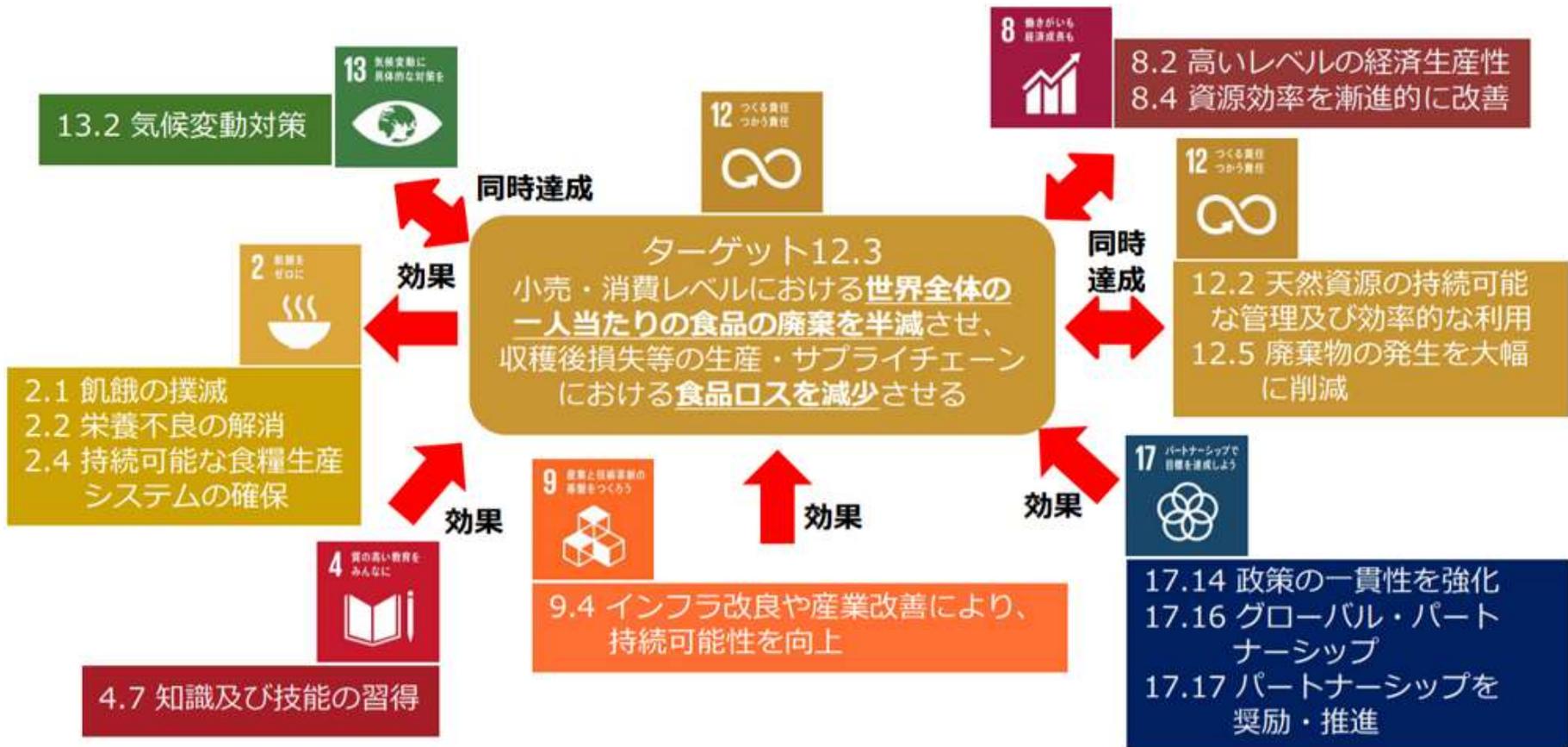
✓ SDGsは高い目標までのギャップをすこしずつ埋めていくバックキャスト思考である



社会課題は複雑であり、一組織では解決できない

- ✓ 各目標・ターゲットは、その社会課題が複雑であるが故に、相互に関係している
- ✓ **政府、自治体、企業、市民社会が様々なプレイヤーの連携なしに解決できない**

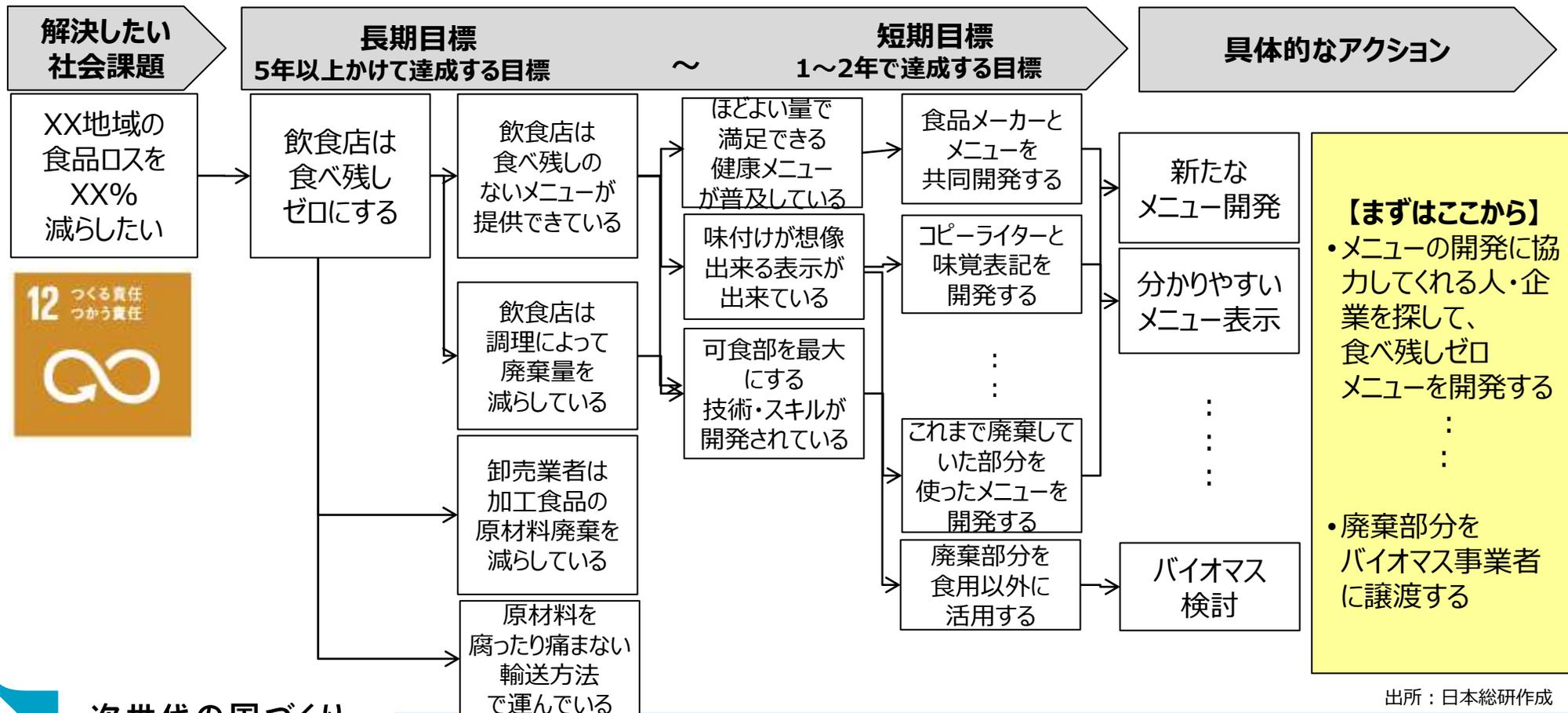
例：「食品ロス削減」に関連するSDGsのターゲット



STEP3:変革への足掛かり：SDGsを起点に考える

- ✓ 実現したいゴールや長期的目標を設定した上で、中間的な成果目標を逆算（バックキャストिंग）しながら、今やるべきアクションを明確にしていくアプローチ

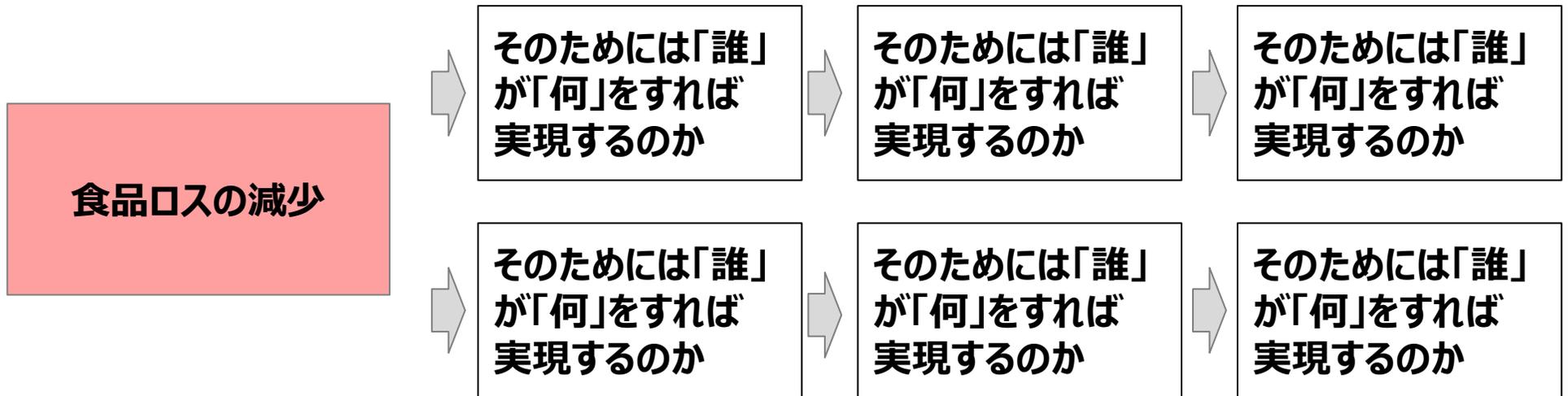
SDGsから考える自社の目標・アクション（例：飲食店）



出所：日本総研作成

活動の考え方：とにかく気になる課題から考える

自組織がすることだけでなく、他社や他業界がすること、地方自治体・政府・国際機関がすること
 個人・家族・地域社会（学校など）がすることなど、**複数の観点と、長期目線で考える**



解決のためには、自社が主語にならないシナリオが出てきても良い。
 あまりにもそれが多の場合、
 「果たして自分たちが、それをやるのが得策なのか、も併せて考える」

グループワーク（45分）

—SDGs(社会課題)起点で次のアクションを考える—

【進め方骨子】

- ① 「議論の進行役」・「書記」・「発表者」を決める
- ② グループで取り組む社会課題を決める
- ③ それをどの「組織」が主語でやるのかをきめる
- ④ バックカスティングで長期（中期）短期目標—直近アクションをブレスト
- ⑤ ブレストした結果を（パワポ画面共有を想定）で書いていく

グループワーク 進め方 その1

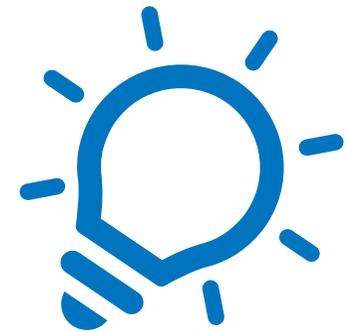
① まずは「議論の進行役」・「書記」・「発表者」を決めてください（3分）

- ✓ 進行役：メンバーの発言を促しながら、時間管理する役
- ✓ 書記：議論内容をワークシートに打ち込んでいき、発表時に画面共有する役
- ✓ 発表者：実施した内容を最後に発表する役

② 次に、グループで取り組む社会課題を決めてください（10分）

- ✓ 考え方①：「この顔ぶれ（組織・個人）ならこんなことが出来そう」と当たりを付けて決める
- ✓ 考え方②：「解決したいと思う社会課題」や「この達成にぜひ貢献したいと思うSDGs目標」をベースに、「これがやりたい」を誰かが語り、他メンバーの同意を得る
- ✓ 書記役は、決定した社会課題を文字にしてください
- ✓ この後の「そのためには「誰」が「何」をすれば実現するのか」の連鎖を考える体験が今日の主眼なので、ここはあまりこだわらずに「えいや」で決めてください。
- ✓ どうしても決まらない場合、講師に相談して下さってもかまいません。

**社会課題が決まらないグループへのヒント
(防災) or (地域・まちづくり)
の活動例とインパクト指標を提供しています**



グループワーク 進め方 その2

③ ②の解決をどの「組織」が主語でやるのかを決めてください (3分)

- ✓ 主語を定めておくと、社会課題の解決に向けて「できること」「できないこと」が明確になり、議論しやすい
 - 例：「食品加工会社」が「食品ロス」に取り組む場合、原材料の調整はできるが、「飲食店」での残渣削減はできない ⇒ 解決のためには「飲食店」の協力が必要だ、という気づきにつながる

④ では、定めた「社会課題」「主語」から出発して、バックキャストिंगで長期目標→中期目標→短期目標→直近アクションを考えてみましょう (20分)

- ✓ 箱の数に拘らず、はじめは多めにアイデアを出すのがおススメ

⑤ アイデアを選んで、最終的に論理チェックして、発表できる形にします (7分)

社会課題設定のヒント：防災の活動分類・活動例

分類	活動の例
防災教育、防災リーダー育成	防災ワークショップ、防災用品のPR、普及啓発用書籍等の発行・出版、被災体験者の講師派遣、防災教育プログラム、防災教育ファシリテーター育成、防災コーディネーター養成、防災士資格の普及
自主防災組織活動支援	自主防災組織の構築・活動のコンサルティング
中間支援、ネットワークづくり	防災関連団体の交流事業
要配慮者支援	障害者施設の防災訓練・耐震診断・家具転倒防止、要援護者の名簿づくり、要援護者一人ひとりの避難計画づくり
基金	障がい者市民防災活動助成金
被災地・被災者支援	被災女性支援活動、災害救援活動

社会課題設定のヒント：防災分野のインパクト指標

アウトカム・インパクトのカテゴリ	詳細	指標の例
1. 防災意識・知識の向上	1.1. 正しい防災意識・知識が身に付いている	防災知識の習得状況
1. 防災意識・知識の向上	1.1. 正しい防災意識・知識が身に付いている	防災関連資格の取得者数
2. 防災関係者間の連携	2.1. 多様な防災関係者の連携の機会がある	防災関係者による協議会の実施回数
2. 防災関係者間の連携	2.1. 多様な防災関係者の連携の機会がある	防災関係者による協議会の構成主体数
3. 防災行動力の向上	3.1. 防災に関する行動力・心構えが身に付いている	災害時にとるべき行動等の事前確認ができている人の数、割合
4. 防災ネットワークの活発化	4.1. 地域の防災人材ネットワークが活発化している	地域における防災リーダー数
4. 防災ネットワークの活発化	4.2. 様々な主体が連携した活動が行われている	ステークホルダーとの協議会から生まれた企画数
4. 防災ネットワークの活発化	4.2. 様々な主体が連携した活動が行われている	協議会により改善された取組の数
5. 災害時の支援体制の構築	5.1. 災害時の支援等の準備ができている	災害時の支援等の準備の進捗率
6. 自助による災害への備えの充実	6.1. 屋内外の安全対策が実施できている	家具転倒落下防止器具の設置率
6. 自助による災害への備えの充実	6.1. 屋内外の安全対策が実施できている	感震ブレーカーの設置率
6. 自助による災害への備えの充実	6.1. 屋内外の安全対策が実施できている	ブロック塀の安全対策の実施率
6. 自助による災害への備えの充実	6.2. 住宅の耐震化・不燃化ができている	住宅の耐震化率
6. 自助による災害への備えの充実	6.2. 住宅の耐震化・不燃化ができている	不燃領域率
6. 自助による災害への備えの充実	6.2. 住宅の耐震化・不燃化ができている	不燃化率
6. 自助による災害への備えの充実	6.3. 家庭内備蓄が充実している	3日分以上の家庭内備蓄をしている人の割合 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している人の割合
7. 地域防災力の向上	7.1. 地域住民に防災行動力が備わっている	自主防災組織の訓練実施率
7. 地域防災力の向上	7.2. 地域による避難所運営体制が充実している	避難所運営マニュアルの整備状況
7. 地域防災力の向上	7.2. 地域による避難所運営体制が充実している	避難所運営訓練実施率
7. 地域防災力の向上	7.3. 災害時の助け合いの体制が整っている	災害時に近隣の人と助け合える関係があると感じる人の割合
7. 地域防災力の向上	7.3. 災害時の助け合いの体制が整っている	災害時協定締結団体数
7. 地域防災力の向上	7.4. 企業内備蓄が充実している	従業員用の備蓄をしている企業等の割合 (※被害想定死者・ケガ人数)
8. 災害による被害の減少	8.1. 災害時の死者・ケガ人が少ない	
8. 災害による被害の減少	8.2. 災害による経済的損失が少ない	
9. 災害時の生活の確保	9.1. 避難生活の必要物資が確保されている	
9. 災害時の生活の確保	9.2. 円滑に避難所運営ができる	

出所：https://simi.or.jp/logic_model/disaster

社会課題設定のヒント：地域・まちづくりの活動

	(類型 1) 都市圏における住民主体のまちづくり	(類型 2) 持続可能な中山間地域づくり
課題	住人はいるが地域内での交流や地域課題に関する話し合いの場がない	地域に経済基盤がなく、人口の流出が止まらず、少子高齢化、過疎化に悩まされている
めざすアウトカム	地域のソーシャルキャピタルが増大する	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の担い手の増加 (ヒト) ・地域の経済発展 (カネ)
めざすインパクト	地域の活性化が進む	地域の持続性が向上する
活動例	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い世代の地域住民を対象としたコミュニティカフェの運営 ・まちづくりに関する様々なイベントや講座の開催 ・街の情報を発信するフリーペーパーの発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品加工推進事業、販売事業 ・生きがい文化事業（竹細工、陶芸など）

社会課題設定のヒント：地域・まちづくりの活動 類型 1

アウトカム・インパクトのカテゴリ	詳細	指標の例
1. 人の集まる場 ができる	1.1. 地域内の知り合いが増える	地域内の友人・知人が増加した人の数、割合
1. 人の集まる場 ができる	1.2. 組織や職業を超えた交流が生まれる	組織や職業が異なる友人・知人が増加した人の数、割合
2. 共感づくりが進む	2.1. 関心や問題意識の共有が進む	地域課題に関心がある人の数、割合
2. 共感づくりが進む	2.2. 市民の発意が醸成される	地域活動の立ち上げ、もしくは参加を検討している人の数、割合
3. 参加や活躍の機会が増える	3.1. チャレンジしてみる機会が増える	地域づくりへの参加の機会が増えた人の数、割合
3. 参加や活躍の機会が増える	3.2. リーダーシップやコミットメントが育つ	新規市民プロジェクト・ボランティア活動発起数
3. 参加や活躍の機会が増える	3.2. リーダーシップやコミットメントが育つ	市民プロジェクト・ボランティア活動への新規参加者数
3. 参加や活躍の機会が増える	3.3. 企画力や運営力がつく	講座等で学んだ内容を現場で実践した人の数、割合
4. 地域のソーシャルキャピタルが増大する	4.1. 地域の人々のネットワークが強くなる	困った時に相談できる人や場所がまわりに存在する人の数、割合
4. 地域のソーシャルキャピタルが増大する	4.2. 地域の中間支援機能(つなぐ力)が充実する	地域内で中間支援機能を果たしている組織(NPOなど)の数とそれぞれの組織の会員、講座受講者、事業参加者等の数
4. 地域のソーシャルキャピタルが増大する	4.3. 地域が人を育てる力をもつ	生涯学習など自発的に学ぶ機会、施設が十分にあると感じる人の割合
4. 地域のソーシャルキャピタルが増大する	4.4. 災害時の助け合いが活発になる	災害時に近隣の人と助け合う関係があると感じる人の割合
5. 地域の活性化が進む	5.1. 地域活動が活発になる	主体的に地域づくりを行っている自治会、学校(PTA)、NPOなどが増えたと感じる人の割合
5. 地域の活性化が進む	5.2. 地域課題への取り組み力が増大する	市民団体(地縁組織含む)・民間企業による地域課題解決活動の種類、数、受益者数

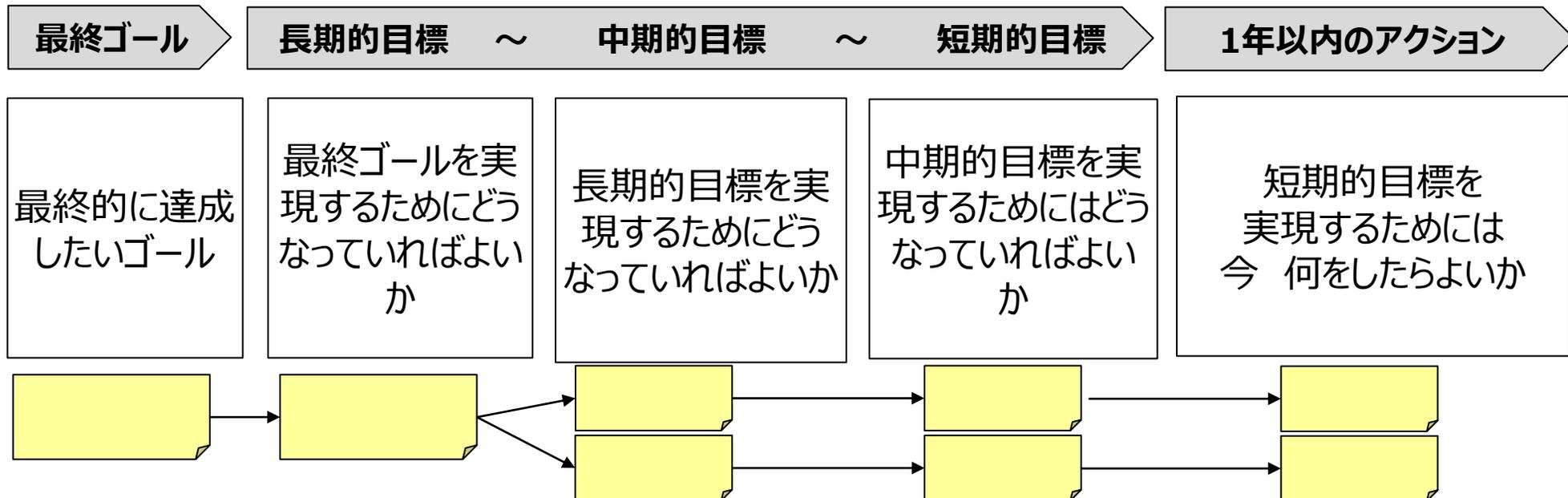
社会課題設定のヒント：地域・まちづくりの活動 類型 2

アウトカム・インパクトのカテゴリ	詳細	指標の例
1. 人の集まる場ができる	1.3 世代間交流が進む	異なる世代の友人・知人が増加した人の数、割合
1. 人の集まる場ができる	1.4 地元出身者と新規流入者の交流が進む	地元出身者と新規流入者が交流する場の開催数と参加者数
6. 地元のプライドが高まる	6.1. 地域の歴史や伝統が見直される	文化遺産の保存継承の程度
6. 地元のプライドが高まる	6.2. 地域の魅力に気づく	地域に魅力を感じる人の数、割合
7. 地域の収入が増える	7. 地域の収入が増える	地域別年間商品販売額
8. 地域の担い手の増加	8.1. 知識や技能の受け渡しが進む	地域資源の普及・教育・共有が盛んであると考える人の割合
8. 地域の担い手の増加	8.2. 交流人口、UJターン者が増加する	観光交流客数
8. 地域の担い手の増加	8.2. 交流人口、UJターン者が増加する	他の地域から移ってくる人が増えたと感じる人の割合
9. 地域の経済発展	9.1. 経済の地域循環が進む	地域経済循環率
9. 地域の経済発展	9.2 伝統産業の復興が進む	伝統産業において新たに開発、もしくは復刻した商品の数、売上
10. 地域の持続性が向上する	10.1. 地域の文化や産業が引き継がれる	地域産業の後継者がいると考える人の割合
10. 地域の持続性が向上する	10.2. 地域内の職業機会と働き手が増加する	地域に雇用の機会は多いと考える人の割合
10. 地域の持続性が向上する	10.2. 地域内の職業機会と働き手が増加する	地域に就職する若者が増えたと感じる人の割合

模造紙の書き方

- ✓ モデルの左端、「最終ゴール」に社会課題を入れる（自社だけで解決できないものも可）
- ✓ 左から順に、長期、中期、短期で、どのような状態になれば良いかを考える（中期はなくても可）
- ✓ 短期目標を実現するために、1年以内に実行するアクションを考える
- ✓ 決定した長期、中期、短期の目標は測定可能なものになっている？ 論理展開を確認

SDGsから考える自社の目標・アクション

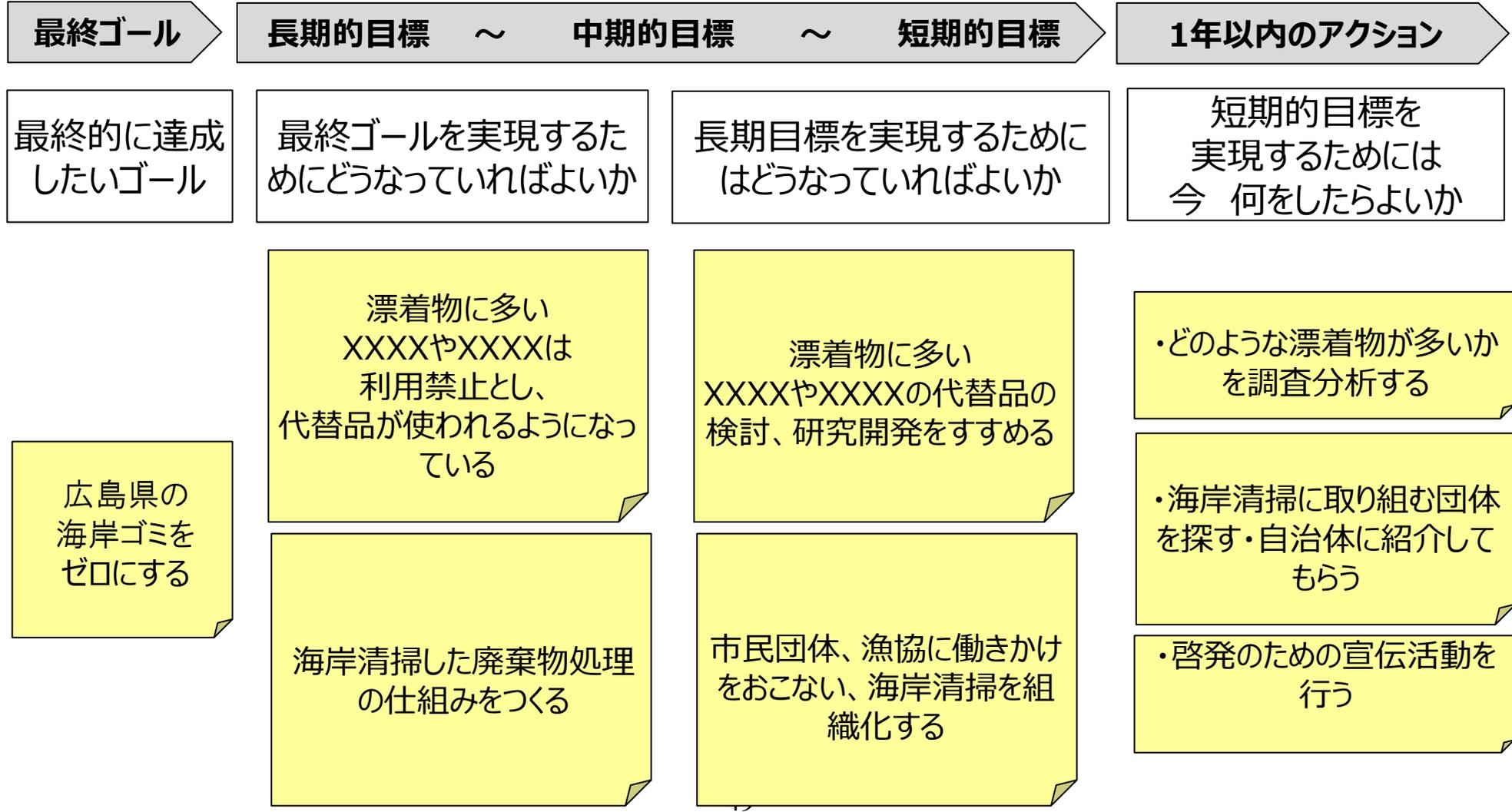


模造紙（記入例）

組織名： プラスチック加工のXXX社

取り組む課題： 広島の海岸ゴミを減らす

SDGsから考える自社の目標・アクション



各チーム発表 (5分 x 3チーム)

- ① 発表者のお名前
- ② 組織名
- ③ 取り組む課題
- ④ ストーリー説明
最終ゴール-目標-アクション
- ⑤ ひとつこと ご感想

模造紙（記入例）

組織名： プラスチック加工のXXX社
 取り組む課題： 広島県の海岸ゴミを減らす
 SDGsから考える自社の目標・アクション

最終ゴール	長期的目標 ~	中期的目標 ~	短期的目標	1年以内のアクション
最終的に達成したいゴール	最終ゴールを実現するためにどうなっていればよいか	長期目標を実現するためにどうなっていればよいか	短期的目標を実現するためには今、何をしたらよいか	
広島県の海岸ゴミをゼロにする	漂着物に多いXXXXやXXXXは利用禁止とし、代替品が使われるようになっている	漂着物に多いXXXXやXXXXの代替品の検討、研究開発をすすめる	どのような漂着物が多いかを調査分析する	・海岸清掃に取り組む団体を探す・自治体に紹介してもらう ・啓発のための宣伝活動を行う
	海岸清掃した廃棄物処理の仕組みをつくる	市民団体、漁協に働きかけをおこない、海岸清掃を組織化する		

作業が間に合わなかったチームは、
「どこがボトルネックだったか」を
教えてください

クロージング

本日のタイムテーブル

構成	内容	所要時間 (分)	形式	詳細
イントロダクション 13:30-14:00	主催者ご挨拶	10	全体	(ひろしま地球環境フォーラム)
	講師自己紹介		全体	(日本総研)
	本研修の目的・ 進め方		全体	目的、進め方
	アイスブレイク	15	グループ	自己紹介・グループ紹介
	中級振り返り	5	全体	(日本総研)
第1部 業務とSDGsを 紐づけるには 14:00-15:05	講義/ワーク説明	5	全体	SDGs概要 ワーク説明
	グループワーク	30	グループ	ロジックモデルを書いてみる
	発表	15	全体	
	休憩	15	—	
第2部 社会課題起点の アクションとは 15:05-16:10	講義/ワーク説明	5	全体	ロジックモデルの考え方- ワーク説明 社会課題起点 グループ
	グループワーク	45	グループ	社会課題起点のロジックモデルを書いてみる
	発表	15	全体	各グループ4分 x 3
クロージング 16:15-16:30	振り返り/質問 ご挨拶	10 5	全体 全体	総括、質疑応答 ご挨拶

講評・振り返り

- ・作業の意味がわからなかった、または、やり方に不明点があった場合などのご質問ください。
- ・研修以外の質問でも良いです。

3時間の振り返り

第1部

ロジックモデルを 書いてみる

- 紐づけの目的、現状把握、課題把握、ステークホルダへのレスポンスを考えること
- ロジックモデルの完成が目的ではない
- 作成するプロセスにおける変化のストーリー、最終目標への共通認識を得ることが重要

第2部

社会課題起点の アクションとは

- 紐づけに留まらず、社会課題起点でのアクションを考えることが、SDGsがもとめる「変革」
- 図解を完成させることが目的ではない
- 社会課題解決のための計画策定のプロセスで判明する、不足リソースを補うために、多様な主体の協力を得るかを考えることが大事（いずれの目標も一人では達成できない）

本研修の目的

本研修のセミナー・ワークショップのコンテンツが
参加者の皆様の SDGsやサステナビリティに関するアクションのきっかけになることを企図しております。

「知識の習得」から「行動」へ



このあと、対話してみたい「誰か」の
イメージを抱くことが大事

ご質問

研修の内容でも、それ以外でも良いです。

主催者ご挨拶

ひろしま地球環境フォーラム

長時間おつかれさまでした。

本資料は、ひろしま地球環境フォーラム セミナー・ワークショップ資料 として取りまとめました。
本資料に記載している情報、意見等は、資料作成時点における公開情報または非公開情報を元にした
当社の判断に基づくものであり、正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料に関するお問い合わせ、ご確認は下記までお願いいたします。

株式会社日本総合研究所

橋爪 麻紀子
hashizume.makiko@jri.co.jp

本研修内容へのご質問は
メールで受け付けております

本資料の著作権は株式会社日本総合研究所に帰属します。